

蚕都上田の栄光



目次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋創一
東京大学教授 文学博士 佐藤 信

第一章 織物にみる上田のあゆみ

第一節 麻と木綿 3

一 縄文・弥生・古墳時代 3

出土品としての繊維製品

二 古代から中世へ 4

正倉院宝物のなかの布 文献のなかの信濃布

三 中世から近世へ 6

和州郡山からの繰綿 上田地方への木綿普及 木綿をめぐる動き

第二節 絹織物……………	9
--------------	---

一 古代・中世の絹織物……………	9
------------------	---

貢納物としての絹 記録のなかの「ツムギ」

二 近世の絹織物……………	11
---------------	----

上田における絹織物

コラム 真田紐

第二章 近世上田の蚕糸業

第一節 近世中期の蚕糸業……………	15
-------------------	----

一 近世中期の養蚕と織物……………	15
-------------------	----

宝永の上田藩村明細帳 宝永期の養蚕普及状況 上田縞の流行

二 上田縞と上田紬……………	18
----------------	----

上田縞の見本 享保十九年織立おりたて注意書 上田縞・上田紬の上方移出

三 蚕種と養蚕書……………	20
---------------	----

蚕種製造の流れ 『新撰養蚕秘書』にみる養蚕術

第二節 近世後期の蚕糸業……………	25
-------------------	----

一 上田城下の賑わい……………	25
-----------------	----

為登糸の移出 上田名産の上田縞・縞紬 理想の上田紬

二 養蚕・蚕種業の発展……………	26
------------------	----

三	桑畑の拡大と桑の売買	上塩尻村の蚕種商人	蚕種商人仲間の結成	信州上田蚕種の確立	29
	上田藩の国産品統制				
	産物改所の設置	産物会所の開設			

第三章 養蚕業の発展

第一節	養蚕業の普及	35
-----	--------	----

一	横浜開港の衝撃	35
---	---------	----

養蚕業への脚光 本格的養蚕業への道

二	養蚕業の広まり	36
---	---------	----

『町村誌』にみる蚕業 乾湿計の発明 清涼育から保温折衷育へ 明治初期の飼育法

第二節	養蚕業の躍進	40
-----	--------	----

一	桑園の拡大	40
---	-------	----

上田小県地方の桑園 桑園の技術的發展 優良桑苗の生産 桑仕立て方の変遷 桑園に化学肥料を

二	増える繭の生産量	44
---	----------	----

県内最大の収繭量 夏秋蚕の登場 養蚕の労働力

三	養蚕技術の改良	46
---	---------	----

全芽条桑育の普及 養蚕組合の設立 蚕室の改良 繭糸会社の設立 霜害とその対策

第三節	養蚕業の変容―恐慌下の養蚕業―	50
-----	-----------------	----

一	養蚕経営の打撃	50
---	---------	----

第四章 蚕種業の発展

第一節 幕末・維新时期

一 幕末開国期の動向

蚕種貿易の始まり

蚕種貿易をめぐる動き

69

二 明治初年の動向

維新動乱のなかの蚕種業

明治四年「末年^{ひつじ}之事件」

71

第二節 明治期

一 蚕種業の発展

上田盆地の蚕種の桑畑

千曲川沿岸に集中する蚕種屋

蚕種屋と種場

全国的産地へ

蚕種会社の設立

73

横浜蚕種焼き捨て事件

明治中期の蚕種

二 蚕種業の近代化

微粒子病とその対策

蚕種同業組合の結成

蚕品種の整理と統一

81

三 蚕種検査の近代化

83

世界大恐慌と養蚕農家

生糸と人絹

養蚕農家の対応

農村更生運動

二 養蚕業の変化

養蚕実行組合の結成

産繭処理統制法と特約組合

桑園の整理改植

53

三 大戦下の養蚕業

生糸消費国アメリカの変化

蚕糸業統制法の制定

文化育の導入

戦時下の繭増産計画

食糧増産

56

コラム 蚕の一生

蚕糸業を知るための基本用語

平付けから粹付けへ	夏秋蚕種	風穴を利用した蚕種貯蔵	冷蔵庫を蚕種貯蔵に利用	蚕卵台紙の製造
-----------	------	-------------	-------------	---------

第三節 大正・昭和期 87

一 蚕種の品種改良	優良糸と蚕種改良	一代交雑種の開発	雌雄鑑別のむずかしさ	上田蚕種株式会社の設立
-----------	----------	----------	------------	-------------

県指定蚕種の奨励	人工ふ化の実用化	バラ蚕種
----------	----------	------

二 蚕種業の全盛期	全国一の蚕種産地へ	蚕種郷の塩尻村	蚕種取締所出張所設置	鉄道の開通と蚕種業
-----------	-----------	---------	------------	-----------

郵便による蚕種輸送

三 蚕種王国の崩壊	蚕種屋への衝撃	製糸会社による蚕種製造	没落する中小蚕種屋	原蚕種の国家管理へ
-----------	---------	-------------	-----------	-----------

四 戦時下の統制	戦時体制下の統合	蚕糸業統制下の蚕種業
----------	----------	------------

第五章 近代製糸の導入と発展

第一節 維新期の製糸業 105

一 生糸の輸出と改良	生糸の輸出と上田	輸出を支える生糸	生糸改会社から生糸改所へ	拡栄社の誕生
------------	----------	----------	--------------	--------

上田で第一回共進会	足踏座繰器に活路を見いだす	産業組合と揚返場	上田女紅場と織物業
-----------	---------------	----------	-----------

二 洋式技術の習得	宮下理兵衛前橋製糸所へ	上田製糸所と小野組	富岡製糸場の工女に上田から
-----------	-------------	-----------	---------------

三 器械製糸業の発展	115
信陽館 しんようかん と器械製糸	
常田館 ときだ の上田進出	
水をめぐる問題	
製糸工場と繭倉庫	
上田倉庫と諏訪倉庫	
大屋停車場の設置運動	
コラム	
生糸の商標	
第二節 大正期の上田	122

一 経営規模の拡大	122
器械製糸工場の増加と変遷	
共同の再繰工場信全社	
生糸検査と関東大震災	
筑水社の生糸取引	
浦里の座繰製糸	
繭の購入にかかる費用	
二 繰糸技術の向上と副産物	127
繰糸技術の改良	
水の利用と動力源	
絹製品から靴下へ	
信州上 じょう 一番は最下位に	
副産物の処理を専門の工場で	
副産物 ふくさんぶつ の処理	
三 労働者の保護と製糸業	131
工場法による労働者の保護	
製糸工場で働く男子工員	
働く繰糸工女 そうし	
工女募集にかかる費用	
工女の賃金と賞罰制度	
働く時間と休日の楽しみ	
第三節 世界大恐慌と十五年戦争	136

一 製糸業の縮小と不況対策	136
糸価暴落と製糸工場の倒産	
工場倒産で倉庫会社も	
恐慌と不況対策	
常田館の繭特定取引	
セリプレーンで高い繰糸技術	
多条繰糸機 たじょうそうしき の登場	
生糸の消費と藤本蚕業	
屑繭利用で収入を図る村 くずまゆ	
上田共同再繰所料金値上げ	
二 製糸労働者の推移と就職斡旋	141
切り下げられる工女の賃金	
新しい職場を求めて	
上小販連 じょうしょうはんれん が製糸をはじめ	
三 衰退する製糸業	143

国内用生糸への転換 輸出停止後の生糸製造
コラム 繭から生糸ができるまで

第六章 蚕糸教育と行政

第一節 小県蚕業学校

一 郡立小県蚕業学校の発足

蚕業学校の設立 学校の規則 校舎は丸掘の民家を改修 長野県官員になった三吉米熊
ヨーロッパを視察した三吉米熊 開校と蚕業学校の教職員 生徒数と出身地
蚕業学校式飼育法と天気予報 権現坂に校舎移転

151

二 県立小県蚕業学校の発展

県立学校への移管 科編成と定員 学科課程 教員志望者の養成 寄宿舎 実習教育
産業会と友誼会 地域への貢献 卒業生の活躍 蚕糸業全盛期の蚕業学校 校舎が常入の現在地に移転
三吉米熊校長の逝去

155

三 戦争と蚕業学校

戦時体制下の学校 軍事教育と学徒動員 北海道援農隊の派遣 空襲による校舎焼失

162

四 小県蚕業高等学校

上田農業学校 小県蚕業高等学校の誕生 社会経済状況の変化と蚕業教育

165

第二節 上田蚕糸専門学校

一 上田蚕糸専門学校の設立

専門学校をめぐる動き 上田蚕糸専門学校の設立 上田蚕専の開校 絹糸紡績科と繊維化学科増設

167

戦時体制と繊維専門学校

二 信州大学繊維学部にあゆみ 171

信州大学繊維学部への転換 学科の改廃・増設と大学院設置

第三節 蚕業試験場 173

一 原蚕種製造所の設置 173

劣悪な生糸 原蚕種製造所の設置 原蚕種の製造と配布 生かされた研究成果

二 蚕業試験場の設立 176

蚕品種統一に貢献 蚕業試験場の研究体制

三 上田での蚕業試験場 177

上田への蚕業試験場移転 養蚕の近代化に貢献 上田の蚕業試験場の廃止

第七章 第二次大戦後の養蚕業・製糸業・蚕種業

第一節 蚕糸業の復活 183

一 養蚕業の復活 183

桑園の復興 養蚕農業組合の結成 稚蚕共同飼育の普及 省力多収繭の養蚕業へ

農業構造改善事業と養蚕業

二 蚕種業の復興 188

上田蚕種の復活 昭栄製糸による蚕種製造 蚕種の技術革新

三 製糸業の復興 190

生糸の輸出再開 戦後復興期の製糸業 自動繰糸機の普及 国用製糸

第二節 蚕糸業の衰退と消滅……………	193
一 養蚕業の衰退と消滅……………	193
養蚕業の消滅 養蚕業が消えた日 蚕種・養蚕の近代化遺産	
二 蚕種業の展開……………	194
蚕種製造量の減少 蚕種保存と研究	
三 製糸業の転換……………	196
輸入糸の激増 製糸業の消滅と転換 近代遺産から学ぶもの	
第三節 上田紬の復活と盛衰……………	198
一 上田紬の復興……………	198
年寄りに愛用された紬 上田紬の復活	
二 紬ブームの中の上田紬……………	200
紬ブームの到来 上田紬の機屋	
三 現在の上田紬……………	202
着物離れと新商品開発 土産品の中の上田紬	
執筆分担	
協力者・協力会社・団体	
参考文献	
あとがき	
上田市誌の編さん組織	
『上田市誌』全三二冊の編成と書名	

上田市誌 近現代編(2)

蚕都上田の栄光

発行 平成十五年三月一日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田市

上田市誌刊行会

上田市大手一―一―一六

電話 〇二六八―三―四一〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇